

わがまち *Araijuku* 新井宿

自治会 東目 自治会 自治会
 自治会 四丁目 自治会 自治会
 自治会 三丁目 自治会 自治会
 自治会 二丁目 自治会 自治会
 自治会 一丁目 自治会 自治会
 自治会 新井宿五丁目 自治会
 自治会 新井宿六丁目 自治会
 自治会 新井宿七丁目 自治会
 共同編集

地名をペンネームにした
 大森三中あたりの地名は、江戸時代から子母沢と呼ばれていまし
 た。現在ある「子母沢児童公園」がその名を残しています。地名を
 ペンネームにした新井宿ゆかりの大衆作家です。

北海道生まれの子母沢寛（一八九二―一九六八）本名梅谷松太郎は、大正十二年新井宿西沼（子母沢一〇一五）で、新聞社に在職する傍ら執筆活動を行い、昭和三年「新撰組始末記」を処女出版。子母沢の地名をとり、ペンネームを子母沢寛としました。この作品により、生き残りの聞き書き形式を生かした、独特な叙述方式を定着させた彼は、いわば時代の体験者の最後の証言を書きとめようとする、功業者でありました。体験が歴史へ次元を変えようとする時に、彼は、その両者をつなぐ合わせるような役割を果たしました。昭和十六年から二十一年にかけて、六年間に亘って書き継がれた大河小説「勝海舟」は、代表作であるだけでなく、戦中から戦後へかけての記念すべき大作でした。時代小説は、戦時中厳しい種々の規制の中にあり、寛白の主体性を固める方向で



▶好物の鯨（にしん）を食べる子母沢寛

書いた作品です。そして又、祖父十次郎は、彰義隊の一員として上野で戦い敗れた、かつての江戸の御家人でした。その祖父に対する追慕の情が、作者を維新ものに向かわせたのかもしれない。作品は大衆文学の秀作が多く、映画にされることも多かったのです。

昭和十一年山王に移転。庭に弓道場のある大きな屋敷だったようです。昭和二十年別荘であった藤沢市鶴沼へ移転。

人の人柄をよく現したエピソードです。

主な作品

「新撰組始末記」「弥太郎」「父子鷹」「勝海舟」「国定忠治」など



＊根岸地蔵の由来
 山王三・四丁目自治会婦人会
 山王台地の東の裾、古い地名は新井宿字根岸（山王三二一六八）、その頃の地蔵は土かむり地蔵と呼ばれていたほど崖の土をかぶっていたようです。大正四年、地元有志により土止め工事がなされた様子が名前の刻まれた石によりうかがわれます。昭和五十四年に現在の地蔵堂が再建され、毎年八月二十四日の地蔵の命日には萬福寺から

◎◎◎ 大田区政功労者表彰 ◎◎◎

去る三月二十六日、大田区民クラブで区政に功労のあった方々に対する表彰が行われました。受賞された新井宿地区の方々を分野ごとに紹介します。

◆民生委員 指谷 紮子
 ◆消防団員 鈴木 光一 田口 英雄
 辻 忠一郎 細川 樹吉

◆自治会・町会（会長・副会長）
 浅沼 忠雄 服部 錦朋
 政岡 和雄
 ◆日赤奉仕分団長
 山内 大三
 ◆区立学校薬剤師
 江島 陽子 神谷 明宏
 （敬称略・順不同）



僧侶を迎え盛大に法要をいたしておられます。

＊頑張っています

市民消防隊
 昨年の十一月八日（日）本門寺公園において市民消防隊のポンプ操法発表会が行われ、新井



宿地区から六つの自治会・町会のC級ポンプ六隊、D級ポンプ（三二ポンプ）四隊が参加し日頃の訓練の成果を披露しました。中には男性でも難しいC級ポンプを女性隊員が見事にこなしていました。地域住民の防災行動力の向上を促す有意義な発表会でした。

＊大森保健福祉センターが
 分庁舎へ移転
 大森保健福祉センターは、大森西庁舎と新井宿庁舎にわかれて業務を行っていましたが、平成十一年三月から大田区分庁舎（大森西一十二一）に移転し、まとまって業務を行っています。

＊「新井宿福祉園」が
 開設しました
 旧保健福祉部庁舎（中央一十三一）が新井宿福祉園として四月一日に開設しました。この施設は、障害程度の重い十八歳以上の知的障害者の方が、種々の訓練を行い、日々の生活の充実及び社会的自立の助長を図ることを目的とした通所福祉施設です。

（問合せ先）
 保健福祉部 施設課整備係
 電話 五七四四―二二五七
 ―― 編集後記 ――

☆今号の一面は、土地の名をペンネームにした子母沢寛を取り上げました。子母沢公園の名称とともに新井宿ゆかりの忘れ難い作家の一人です。

☆二、三画は、大森第三中学校の改修工事が終了したので、地域に密着した新校舎の内容など詳しくご紹介しました。

☆「町の風」も充実してきました。皆様からのご投稿、ご意見ご感想などをお寄せください。

（延島編集委員）

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会
 編集 「わがまち新井宿」編集委員会
 監修 新井宿地区自治会連合会
 事務局 大田区新井宿特別出張所
 大田区中央四一三―一四
 三七七六一―五三九一

◎ 教育相談室

教育相談室は二つあります。ひとつは、教育指導のために、もうひとつは、生徒の心のケアを目的に設けてあります。心のケアの担当の先生は、保護司などの経験を経た教育の専門家2名で、生徒及び保護者も相談できます。



🏠 集会室

一般の教室と同じ広さで、主に会議に利用します。又、学校の体育館と同様、学校施設として、地域の方々に開放されています（但し、利用時間は原則として夜間・祝祭日・休日に限ります）。利用申込用紙は、出張所にもあります。

🏠 備蓄倉庫

不時の災害に備えて、1500人分の食糧・仮設テント・毛布・簡易トイレなどを管理しています。



道潤会からのお知らせ

道潤会（大森三中同窓会）は、会員数が1～50期生まで約2万名、昨年11月に久々の総会を開きました。今後も同窓の絆を大切に、母校の益々の発展を応援しつつ、活動を続けます。

（連絡先：会長 荻原武雄
電話3774-4865）



大森第三中学校の 校舎が新しくなりました

平成9年4月1日号で概要をお知らせしました様に大森三中の改修工事が平成10年11月末に終わりました。12月中旬に引越し完了、生徒達は既に新校舎で勉強しています。取材で訪問した際、教頭先生に新校舎をご案内いただき、新しい設備についてお話を聞きましたのでお知らせします。



大田区の区立中学校ではじめて、^(注1)「東京都福祉のまちづくり条例」に基づいて建築されました。校舎内は、^(注2)バリアフリーを図るために、車椅子がすれ違える幅のある段差のない廊下や出入り口、視覚障害者などに配慮した案内表示、障害者が使えるトイレ、エレベーターなどが設置されています。

（注1）「東京都福祉のまちづくり条例」

高齢者、障害者等を含めた全ての人々が地域で自立して、生きがいをもって生活し、社会参加のできる「やさしいまち東京」を実現するための条例です。

（注2）バリアフリー

障害者や高齢者の方々が生活をしていくうえでの不便な障害を取り除くことを言います。具体的には階段に代えてスロープにしたり、手すりを設置したりすることなどがあげられます。

🎵 音楽室

特に防音の面では、近隣の方々への気配りを感じます。

🍴 多目的室・食堂 二階・三階のホール

生徒の自主性を育てようとする教育理念が感じられる広々としたスペースです。特に、二階のホールは、全校生徒の朝礼にも使っています。



▼ ゆったりとして奥行きのある廊下



♿ トイレ

身障者用のトイレが各階毎に設置されています。また、トイレの水は、雨水を利用しています。西側階段の下に、約260トン进行貯水できます。